吉見伝左衛門と神池の歴史

1883年　上牧で生まれる（大人になってからの身長は149㎝）

　　　　 家の暮らしが貧しく、学校へ行かずでっちぼうこうへ行かされる。

　　　　 ある日、鴨庄地域で牛を引いて草刈りをしてしると、知り合いに会い「まだでっちをしてるのか」と笑われる。

小学校の先生になる



鴨庄小学校の校長先生になる



村長になる

　　　　　　　　　　　　くやしい。みかえしたい。

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

　　　　　　　　　　　　勉強してかしこくなろう

どうにかして子ども達を学校へ来させる方法はないのか。

私の給料は、いらない。子ども達のために使ってくれ。

当時の鴨庄地域の様子

・1件156円の貯金しかない。

・子ども達は働かされ、学校へ行けない。

子ども達の学校で作った作品が、丹波新聞の賞をもらう。

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

先生たちも頑張らないと！

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

鴨庄地域には農業が大切だ。勉強しよう！

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

ため池が必要だ。

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

作る場所を探しに丹波地域を歩きまわる

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

今の場所を見つけ、大学の専門の先生などにも相談し、「成功できる」というきざしが見える

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

地域の人々に相談する。

「干ばつは10年に1回くらい。ため池を作るよりお金をかせいでいるほうがよいわ」

と反対され、何日もかけて考えたものが1日で消えてしまった。

大反対！

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

1936年　雨が降らず、鴨庄地域が大干ばつにあう。

83年前 国のえらい方が鴨庄地域に訪れ、「対策はしていないのか」と聞かれる。

伝左衛門さんは、「計画はしているが、村人には反対され村にはお金がない」と伝える。

　　　　 すると「国や県と相談して、お金の手助けをしてもらえるように声をかけてみよう」と言ってもらえる。

　　　　 たちのき問題や隣の吉見村との相談にも苦労しましたが、何とか理解してもらえた。

1938年　神池の大工事がスタート。工事に関わった人は約10万人！

大反対！

85年前 周囲2㎞の大きなため池を計画。

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

　　　　 大変なのに、お金が少ししかもらえない。なかなかゴールが見えない。

「村長が勝手に決めた」といわれ、働き手が一人二人と減っていく。

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

　　　　 伝左衛門さんは、いつも支えてくれている荒木さんに相談。

・村の協力・団結力があれば、必ず成功する。という強い思いを言った。

・ため池が完成する前に私が亡くなったら、ここに骨を埋めてくれ。と命を懸けて作っているという思いを伝える。

・やり直しはできない。1回勝負なんだ。（すごいプレッシャー）

1942年　ため池が完成する

81年前

　　　　　水がたまらない。

大バッシング！

子ども達で考える。

「ほら見ろ。こんな大きな池に水なんてたまるわけがない」など

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

少しずつ水がたまっていくが、、、

・そのときの伝左衛門さんの気持ちを現したことわざ

「千丈の堤も蟻の一穴」

※どんな小さなことでも油断すると大事件を引き起こす

伝左衛門さんは、毎晩ため池に行っては、土に耳をあて水の流れる音が聞こえないかを確認していた。

毎日不安。

1939年　　　　　　　　　　　　大干ばつが再びやってくる。

そのとき神池は満水！！

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

村中の人々（反対していた人々も）が

「水を抜いてくれ。流してくれ」と伝左衛門さんのところへ

助けを求めてくる。

小学校の先生になる

鴨庄小学校の校長先生になる

　村長になる

伝左衛門さんは、役場の人々と相談し、ついに水を抜くことを決断。

**6月25日　午前7時30分**　荒木さんに栓を開けることを指示し、ついに放流。

78日間、水は流れつ続けた。

その年の鴨庄地域は、大干ばつにも関わらず、大豊作。

郷人の真心こめし溜池は　子孫に残す富の礎

（伝左衛門さんが作ったの神池の功績を称える詩）

※鴨庄の村人が心をこめて作った神池は、

これからの子どもや孫が豊かに暮らすための土台となる

67歳で亡くなったが、伝左衛門さんが残してくれた神池は、今も鴨庄地域を支えている。

**伝左衛門さんの信念**

**正しいことを最後まで貫いたものこそ、最も強い人間だ。**